

- 問1 景気が過熱して物価が上がり続けるインフレーションの状態にあるとき、中央銀行である日本銀行が行う政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売り、市場の通貨量を増やすことで、利子（金利）を低下させる。 | 2. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売り、市場の通貨量を減らすことで、利子（金利）を上昇させる。 | 3. 日本銀行が民間銀行から国債を買い取り、市場の通貨量を増やすことで、利子（金利）を低下させる。 | 4. 日本銀行が民間銀行から国債を買い取り、市場の通貨量を減らすことで、利子（金利）を上昇させる。 |
|--|--|---|---|
- 問2 日本銀行が実施する「売りオペレーション」と呼ばれる政策において、日本銀行と民間金融機関の間で行われる具体的なやり取りと、その直接的な効果を組み合わせたものとして正しいものはどれですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 日本銀行が国債を「売り」、民間銀行から通貨を回収することで、市場の通貨量を「減少」させる。 | 2. 日本銀行が国債を「買い」、民間銀行へ通貨を支払うことで、市場の通貨量を「増加」させる。 | 3. 民間銀行が国債を「売り」、日本銀行から通貨を受け取ることで、市場の通貨量を「増加」させる。 | 4. 日本銀行が国債を「発行」し、日本銀行がそれを直接引き受けすることで、市場の通貨量を「一定」に保つ。 |
|--|--|--|--|
- 問3 日本銀行が景気の安定を図るために行う「公開市場操作」について、景気の状態とそれに応じた日本銀行の行動の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 好景気るとき、日本銀行が政府に働きかけて減税を実施させ、通貨量を増やす。 | 2. 不景気るとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。 | 3. 好景気るとき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。 | 4. 不景気るとき、日本銀行が国債を売却して市場の通貨量を減らす。 |
|---|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
- 問4 中央銀行である日本銀行が行う業務のうち、「発券銀行」としての役割にあてはまる説明として最も適切なものはどれですか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 1. 一般の企業や個人に対して資金の貸し出しや口座開設を行う。 | 2. 国内で流通する紙幣（日本銀行券）を独占的に発行・管理する。 | 3. 税金の収納や国債の発行など、国の資金に関する業務を行う。 | 4. 市中の一般の銀行に対して資金の貸し出しや預金の受け入れを行う。 |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
- 問5 景気が悪化し、企業の倒産や失業者の増大が懸念される状況において、日本銀行がとるべき「買いオペレーション」の仕組みについて正しく説明しているものを選びなさい。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------------|
| 1. 日本銀行が民間銀行に対して預金準備率を上げるよう指示し、貸し出しを制限させる。 | 2. 日本銀行が民間銀行から国債を購入し、その代金を支払うことで市場に資金を供給する。 | 3. 政府が発行した新しい国債を日本銀行が直接すべて引き受け、公共事業の資金に充てる。 | 4. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場から資金を吸い上げる。 |
|--|---|---|---------------------------------------|
- 問6 日本の経済において、一般の銀行とは別に、各国に一つ置かれる「中央銀行」は非常に重要な役割を担っています。日本の中央銀行である日本銀行が、わが国で唯一、紙幣（日本銀行券）を発行することができる役割を何と呼びますか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 1. 発券銀行 | 2. 国立銀行 | 3. 銀行の銀行 | 4. 政府の銀行 |
|---------|---------|----------|----------|
- 問7 物価が上がり続け、景気が過熱すぎていると判断される場合、日本銀行が行う「売りオペレーション」による影響として正しいものはどれですか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 日本銀行が銀行に国債を売ることで、銀行の資金が減り、金利が上がることで企業の借り入れが抑制される。 | 2. 日本銀行が紙幣を大量に発行して政府に供給することで、政府の借金を肩代わりし、財政の健全化を図る。 | 3. 日本銀行が円を売って外国通貨を買うことで、円安を誘導し、日本の輸出企業の利益を増やす。 | 4. 日本銀行が銀行から国債を買うことで、銀行の資金が増え、金利が下がることで個人の消費が拡大する。 |
|--|---|--|--|
- 問8 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気を刺激するために、民間の金融機関との間で行う「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 日本銀行が政府から直接国債を買い取り、公共事業のための予算を増やすことで消費を促す。 | 2. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。 | 3. 日本銀行が各金融機関の預金準備率を引き上げることで、銀行が貸し出せる資金の量を制限する。 | 4. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売却し、代金を回収することで市場の通貨量を減らす。 |
|---|--|---|---|
- 問9 好況時に日本銀行が行う金融政策において、日本銀行と市中銀行の間で行われる「国債」のやり取りと、その結果として生じる「通貨量」の変化の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2026年 兵庫県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量が減少する。 | 2. 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量が増加する。 | 3. 日本銀行が国債を買い、市場の通貨量が減少する。 | 4. 日本銀行が国債を買い、市場の通貨量が増加する。 |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
- 問10 1980年代後半から1990年代初めにかけて、日本の経済において、実体経済の動きとは無関係に土地や株式の価格が異常に上昇した現象を何と呼びますか。 (2025年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| 1. デフレーション | 2. オイルショック | 3. バブル経済 | 4. 高度経済成長 |
|------------|------------|----------|-----------|
- 問11 景気が過熱して物価が上がり続けるインフレの恐れがあるとき、日本銀行は市場の通貨量を調節することで景気を安定させようとします。このとき行われる「売りオペレーション」の説明として正しいものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を減らす。 | 2. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を増やす。 | 3. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を増やす。 | 4. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場の通貨量を減らす。 |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
- 問12 日本銀行が「発券銀行」として、日本銀行券を独占的に発行し、その流通量を管理している最も大きな目的は何ですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 政府の財政赤字を埋めるために、必要なだけ紙幣を増やすため。 | 2. 国民が自由に紙幣を印刷できるように、技術提供を行うため。 | 3. 世の中の通貨の量を調整することで、物価の安定を図るため。 | 4. 一般の銀行の利益を最大化するために、金利を固定するため。 |
|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
- 問13 銀行などの金融機関と家計との関係において、家計が将来の備えなどのために銀行へお金を預けることを「預金」といいます。これに対し、家計が住宅の購入などのために銀行から資金を借り入れた際、借りた元金（元金）に、あらかじめ決められた利率に応じた利子を加えて、最終的に銀行へ支払う合計金額のことを何といいますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|-------|
| 1. 配当金 | 2. 返済総額 | 3. 預金残高 | 4. 元金 |
|--------|---------|---------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売り、市場の通貨量を減らすことで、利子（金利）を上昇させる。	インフレーションの際には、市場に出回る通貨の量を抑えて景気を安定させる必要があります。日本銀行が民間銀行に国債を売る「売りオペレーション」を行うと、代金として民間銀行が持つ現金が日本銀行へ回収されます。これにより市場の通貨量が減り、資金の需給関係から利子（金利）が上昇します。利子が上がると企業や個人がお金を借りにくくなるため、経済活動が抑制され物価の上昇が抑えられます。
問2	答え 1 日本銀行が国債を「売り」、民間銀行から通貨を回収することで、市場の通貨量を「減少」させる。	公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）のうち、好景気時に行われるのが「売りオペレーション」です。日本銀行が主体となって国債を「売る」ことで、対価として民間銀行の資金を回収します。その結果、世の中の通貨（マネースtock）の供給が絞込まれ、物価の安定を図ることができます。選択肢にある「国債を買い、通貨量を増加させる」のは、不景気時に行われる「買いオペレーション」の説明です。
問3	答え 2 不景気とき、日本銀行が国債を買い入れて市場の通貨量を増やす。	不景気ときには世の中にお金を流通させる必要があるため、日本銀行が国債を買って代金を市場に流す「買いオペレーション」が行われます。逆に、好景気で物価が上がりすぎるのを防ぐときは、国債を売って代金を回収する「売りオペレーション」が行われます。税金の増減は政府が行う財政政策であり、日本銀行が行う金融政策とは区別する必要があります。
問4	答え 2 国内で流通する紙幣（日本銀行券）を独占的に発行・管理する。	日本銀行が「発券銀行」と呼ばれるのは、国内で流通する紙幣を独占的に発行・管理する権限を持っているためです。一般の銀行に対して貸し出しを行う業務は「銀行の銀行」、国の税金や国債に関する業務を行う役割は「政府の銀行」にあてはまります。
問5	答え 2 日本銀行が民間銀行から国債を購入し、その代金を支払うことで市場に資金を供給する。	日本銀行が民間銀行の持つ国債などを買い取ることを「買いオペレーション」と呼びます。この操作によって、民間銀行が保有する現金の量が増え、企業への融資や個人へのローンといった形で社会全体に流通する資金（マネースtock）が増加します。不景気対策として、市場の資金量を増やすことで景気を下支えする役割を果たします。
問6	答え 1 発券銀行	日本銀行はわが国で唯一の「中央銀行」であり、独自の権限を持っています。そのうち、通貨（日本銀行券）を独占的に発行し、市場に流通する貨幣の量を調整する役割を「発券銀行」と呼びます。これは景気や物価の安定を図るための極めて重要な機能です。
問7	答え 1 日本銀行が銀行に国債を売ることで、銀行の資金が減り、金利が上がることで企業の借り入れが抑制される。	景気が過熱し物価が高騰（インフレ）している場合、日本銀行は「売りオペレーション」を行います。銀行に国債を売って代金を回収することで、市場に出回る通貨量を減らします。銀行の貸し出し資金が不足気味になると金利が上昇し、企業や家計はお金を借りにくくなります。これにより、過剰な投資や消費が抑えられ、物価の安定につながります。なお、為替介入や紙幣の発行による借金返済は、通常の金融政策の仕組みとは異なります。
問8	答え 2 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。	不況のとき、日本銀行は市場に流通する通貨（お金）の量を増やすことで経済を活性化させようとします。これを「買いオペレーション」と呼び、日本銀行が民間金融機関から国債を買い取ることで、その代金が市場に供給され、資金の循環を促す仕組みです。対して、好景気で物価が上昇しすぎた際に行われる、国債を売って通貨を回収する操作は「売りオペレーション」と呼ばれます。
問9	答え 1 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量が減少する。	日本銀行が国債を売ると、その対価として市中銀行から日本銀行へ現金が支払われます。その結果、市中銀行が保有する資金が日本銀行に吸収されるため、市場全体に流通する通貨量は減少します。この一連の操作は、インフレーションを防止し、物価を安定させるために行われます。
問10	答え 3 バブル経済	1980年代後半、プラザ合意後の円高不況対策として行われた金融緩和などを背景に、市場に溢れた資金が不動産（土地）や株式への投資に集中しました。これにより、実際の価値を大幅に上回る価格がついた様子が、あたかも「泡（バブル）」のように膨らんで見えたことからこの名称で呼ばれます。1991年頃にこの価格が急落し、崩壊したことで、日本は長い不況の時代へと入りました。
問11	答え 1 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場の通貨量を減らす。	日本銀行が保有する国債を一般の銀行に売却すると、その代金として銀行側の資金が日本銀行へ支払われます。これにより、民間市場に出回る通貨の総量が抑えられることになり、景気の行き過ぎを抑制する効果があります。これとは逆に、景気が悪いときに国債を買い取って通貨を供給するのは「買いオペレーション」です。
問12	答え 3 世の中の通貨の量を調整することで、物価の安定を図るため。	もし紙幣が際限なく発行され、世の中に出回る通貨の量が多すぎると、お金の価値が下がり物価が上昇するインフレーションを招く恐れがあります。逆に少なすぎると不況の原因になります。日本銀行は「発券銀行」として通貨の供給量を適切にコントロール（金融政策）することで、お金の価値を安定させ、経済が円滑に回るようにしています。
問13	答え 2 返済総額	銀行から資金を借りる場合、借り手は借りた金額（元金）だけを返せばよいわけではありません。借りた期間や金額に応じた対価として「利子」が発生します。この利子と元金を合わせた全額が、銀行に支払うべき返済総額となります。入試では利子分のみを答えるミスが多いため、元金を含めた合計を指す言葉を正確に理解しておく必要があります。